

赤目川魚道調査結果の報告

平成22年2月10日

南白亀川流域委員会事務局

調査概要



調査項目



投網（任意捕獲調査）の状況



定置網（捕獲調査）の状況



採取した魚類の状況



タモ網（任意捕獲調査）の状況

調査結果

調査地点	全確認魚種	確認個体数		
		定置網捕獲調査 (魚道での採取)	目視調査 (魚道での目視)	任意捕獲調査 (河川での採取)
北日当堰	7目11科22種	1,265個体	1,000個体以上	393個体
千沢堰	6目 9科21種	138個体	166個体	894個体
南吉田堰	6目 8科19種	282個体	1,000個体以上	303個体
天王免堰	7目11科22種	246個体	738個体	643個体
合計	7目11科28種	1,931個体	1,000個体以上	1,906個体

主に魚道で定置網による捕獲・目視確認できた魚種



ボラ



ギンブナ



モツゴ (千葉県)



タモロコ

その他に確認できた魚種



ドジョウ



アユ



ナマズ



オオクチバス

確認した魚種(注目種)

確認魚種 (注目種)	個体数 (全調査合計)
モツゴ	718
メダカ	227
ヌマチチブ	19



メダカ (環境省Vu 千葉県B)



モツゴ (千葉県D)



ヌマチチブ (千葉県D)

確認した魚種(外来種)

確認魚種 (外来種)	個体数 (全調査合計)
ブルーギル	227
カムルチー	24
タイリクバラタナゴ	17
オオクチバス	11



ブルーギル



カムルチー (ライギョ)



タイリクバラタナゴ

調査結果のまとめ

- 多くの魚種が魚道内で確認されており、各堰の魚道は有効に機能しているものといえる。
- 下流の北日当堰と上流の天王免堰で確認できた種を比較してもそれほど差がないことから、多くの魚種が魚道を利用し、遡上していることが推測される。
- ドジョウやナマズなど、水田やその周辺の水路で産卵をする魚種が確認されていることから、水田やその周辺の水路と河川との連続性が保たれていることが推測される。
- ドジョウ、ナマズ、メダカなど、在来のものと思われる種も確認され、外来種もそれほど多くないことから、赤目川は魚類にとって比較的良好な生息環境であり、魚類相は比較的バランスがとれているものと考えられる。今後もこのような環境を維持していることが、生態系にとっては望ましい。